



アンダンテ

君と僕 互いの力生かし合う
共同参画パートナー

登別市男女共同参画情報紙

No.16

～性別や年齢の違いを超えて、男女が平等に
そして、自分らしく生きていくために～

令和元年度男女共同参画週間事業 男女共同参画社会に向けた作品

登別市では、男女共同参画社会について家庭や学校、職場、地域で考えるきっかけとしてもらうため、標語や習字、ポスターなどで男女共同参画社会のイメージを自由に表現した作品を募集し、6月に市民会館にて募集作品全てを展示する作品展を開催しています。

10回目となる今年度は、市内の小・中・高校生から標語313点、習字961点、ポスター23点が寄せられました。そして今年度は初めて学校からの応募のほか、一般の方から標語の応募があり、大変喜ばしく思います。来年度におきましても、学校に限らず広く市民の方を対象に募集しておりますのでぜひご応募ください！

今回はその中から、ポスターの受賞作品を紹介します！



優秀賞
驚別中学校 3年 工藤 里葉



優秀賞
驚別中学校 1年 福嶋 奈保

最優秀賞
驚別中学校 2年 岡田 林檎



Q.アンダンテとは??

A.音楽記号の一つである「アンダンテ」は、「歩くくらいの速さで、ゆっくり演奏」という意味です。男女共同参画の理解や取り組みが「じっくりと自分のペースで進むように」という期待を込め、名付けました。



令和元年度

登別市男女共同参画社会に向けた作品表彰式

表紙でご紹介した作品展の中から入賞作品46点を選考し、令和元年11月16日（土）に市民会館中ホールにて表彰式を執り行いました。当日は35名の受賞者の子どもたちと、その保護者の方々が集まり、伊藤副市長より受賞者一人ひとりに賞状を、登別市男女共同参画社会づくり推進会議 千葉委員長より記念品が手渡されました。

表彰式終了後には、男女共同参画についてのクイズを出題しました。子どもたちにとっては少し難しい内容のクイズでしたが、親子で話し合っって答えを考えている姿が印象的でした。

この経験が、受賞者はもちろんその保護者にとって「男女共同参画」という言葉を身近に感じ、興味を持っていたく機会となることを願っております。

《受賞者を対象としたアンケート集計結果》

Q1. あなたは家でどのような家事をしていますか？

→1位 自分の部屋の掃除 2位 食事の後片付け
3位 お風呂掃除

Q2. 家で主に家事をしているのは誰？

→約7割が「母」と回答。次いで父、祖母。

Q3. 家事等は誰がするのが一番良いと思いますか？

→86%が男の人と女の人が協力すべきと回答。

Q4. 「男の子は強く」「女の子は優しく」など「男/女は〇〇」のように言われたことはありますか？

→半数がときどき言われたと回答。半数はあまり/全く言われないと回答。

2020年登別市市制施行50周年記念

登別市男女共同参画フォーラム2019

日時：令和元年11月16日（土）13時30分～

テーマ：ハラスメントのない社会を目指して 講師：須田布美子法律事務所 須田 布美子 弁護士

表彰式と同日午後から、登別市男女共同参画フォーラム2019を開催いたしました。今年度は「ハラスメントのない社会を目指して」と題し、セクシャルハラスメントについての事例を中心に須田布美子弁護士にご講演いただきました。ハラスメントとは「嫌がらせ」という意味で、行為者(自分自身)の意識の有無に関わらず、相手が不快に感じることはハラスメントとなります。セクハラやパワハラの被害を受けた人が勇気を持って声を上げたとしても、周りの理解がなければ逆に被害者がバッシングされ、最悪の場合自殺に追い込んでしまいます。

大切なのは私たち一人一人がハラスメントについて理解し、被害者から相談があったとき等に応援することです。セクハラを笑って受け流すのが賢い女性なのでしょうか？またセクハラ被害者は必ずしも女性とは限りません。今後も男女共同参画について市民の皆様と考えていただけるようなフォーラムを開催して参ります。

【参加者の感想】

- ・自分の発言が他人を傷つける可能性があるので、注意しないといけないと思いました。
- ・被害者側が勇気を持って声を上げることの大切さを学びました。



登別市初の！女性消防士へのインタビュー！

今号では、今年度入庁した登別市初の女性消防士の中川裕紀さん(22)についてご紹介します。

Q. 消防士を目指したきっかけは？

A. 父が救急搬送されたときにかっつけてくださった消防士の方の姿を見て消防士を目指しました。

Q. 消防学校に通って消防士になったんですか？

A. 恵庭にある救急救命士の専門学校に3年間通いました。同級生は100人で、そのうち女性は3人でした。その後、登別市消防採用後に半年間江別の消防学校に通わせてもらいました。139人中女性は11人いて、室蘭・白老・苫小牧からも1人ずつ女性消防士がいました。



Q. 周りが全て男性職員ですが職場の雰囲気は？

A. 男女平等に接していただいているので、とても働きやすいです。更衣室とロッカーも別にしていただきました。

Q. 取得したい免許は？

A. 救急救命士と大型免許と、将来は水難救助隊に入りたいので潜水士の免許取得をしたいです。

Q. 今後の抱負を一言

A. 来年10月には女性用設備が整えられた新庁舎が完成して、日勤ではなく24時間対応ができるようになるので、体勢を整えて現場で正しい判断ができるように頑張りたいです。

次の女性消防士につながる道を開拓してくれた中川さん。私たちの住む登別を守ってくれる人材として、明るく、志も高く、とても心強く感じました！

住民票、マイナンバーカードへの旧姓併記が始まりました

女性活躍加速のための重点方針の1つであった「結婚後も旧姓のまま仕事を続けることができる/働く意欲を阻害しない制度の構築」を目的として、令和元年11月5日から住民票やマイナンバーカードへの旧姓併記ができるようになりました。女性活躍加速とありますが、もちろん男性も対象となります。各種契約の際や、銀行口座の名義に旧姓が使われる場面、就職・転職時に証明として使用することができます。希望する方は、旧姓が分かる戸籍から現在の姓までがつながる戸籍謄本を用意して、市民サービスグループ窓口（各支所でも可）で申請することができます。

令和元年12月からは運転免許証への旧姓併記も始まりました。選択的夫婦別姓制度については、現在も検討が続いている状況です。

男女共同参画情報コーナーをご存じですか？

登別市役所本庁舎、鷺別支所、登別支所、登別温泉支所、市民会館の市内5カ所にある「男女共同参画情報コーナー」をご存じでしょうか。

男女共同参画に関する講演会のチラシ、DVや女性の就職の相談先の案内、男女共同参画に関する国の刊行物等を設置しています。

本庁舎の情報コーナーは、正面玄関から入ってすぐ右手側の市民ホールにあり、机・椅子も用意されている静かな空間ですので、是非立ち寄ってご活用ください。情報コーナーにある資料等はお持ち帰りも可能です。



小学4年生向け啓発冊子アンケート結果

登別市では、男女共同参画啓発冊子「あなたらしく、自分らしく！」を小学4年生に配布し、児童にジェンダーチェックを、保護者にアンケート調査を実施しています。集計結果から、抜粋してご紹介いたします。

■児童向けジェンダーチェック（回収率97.8%）

Q. 掃除や洗濯などの家事の手伝いは男子でも女子でもいいと思う。

→はい：97.5%・・・昨年度89.2%

Q. 仕事には、女の人間向き男の人間向きの仕事があると決めない方がいいと思う。

→はい：91.7%・・・昨年度89.2%

■保護者向けアンケート（回収率54.2%）

Q. 男女共同参画という言葉聞いたことがありますか？

→はい：63.8%・・・昨年度51.9%

児童の回答については、女性の社会進出、夫婦の共働きが加速している現代に適応した回答が増えた印象を受けました。

保護者の回答については、自由記述欄の「LGBTについても一緒に学ぶべき」「時代の変化を感じる」という意見が目を引きました。一方で、女の子は女の子らしい柔らかい言葉遣いを、男の子には男の子らしく頼もしく育てほしいと心のどこかで思ってしまうという意見もあり、一概に否定はできない難しい問題だと感じました。

ジェンダーとは？

社会的・文化的につくられた後付けの性別で、男と女を決める考えの事です。例えば女性＝家庭を守る・スカートをはく、男性＝外で働く・髪は短く整えるといった日本では当たり前・主流に感じることもジェンダーに該当します。

～DV防止の啓発ポスター及びカードを作りました～

一般的に親密といわれる環境にある人（配偶者、内縁の夫・妻、婚約者、恋人など）から暴力を受けるDV被害者は、自分がDVを受けていることに気付いていない人も少なくありません。

今年度、市ではDV相談窓口の連絡先を記載したポスターと名刺サイズのカードを作成し、市役所本庁舎及び各支所、市民会館、市内のコンビニや医療機関等に配置しました。登別市市民相談室では、女性の相談員による個室での相談体制で、プライバシーは厳守いたします。

今後も相談しやすい体制、相談機関の周知啓発に努めて参ります。



女性プラザ祭で男女共同参画について一緒に学びませんか？

札幌市にあります「北海道立女性プラザ」では、毎年11月に男女共同参画に関連する講演を主とする「女性プラザ祭」を開催しており、登別市男女共同参画社会づくり推進会議委員として今年度も参加しました。今年度は、「北の女性からのメッセージ」と題して、SDGsに基づくESD（持続可能な開発のための教育）に取り組みされており、自然エネルギー体験ができる環境教育活動を実施しているNPO法人八剣山エコケータリングの代表の方と、阿寒郡鶴居村でコテージやレストラン等を経営している丘の上のハートンツリーの代表の方による講演でした。2人に共通することは、夢を実現するには何事にも躊躇せず行動を起こすこと、子育て期の仕事との両立にあたって、子どもには迷惑をかけたけど、今は良き理解者になっていることでした。

また、札幌までの移動は市バスとなりますが、今年度から一般の市民の方の乗車も可能となりました。来年度についても参加者を募集する予定ですので、多くの方の応募をお待ちしております。時期が近づきましたら広報のぼりべつ内で周知いたします。※参加費は無料です

編集後記

●私達委員は普段それぞれが仕事、家庭などで忙しい中、推進会議では真剣に話し合いを進め意見を出し合っています。その活動の1つ、アンダンテの周知方法が町内会回覧から全戸配布となりました。より多くの市民の皆様に男女共同参画社会に向けた活動の取り組みに関心をもってもらえたら幸いです。(M.S)

●男女共同参画では、女性と男性が喜びも責任も分かち合い、個性と能力を発揮できる社会の形成とありますが、様々な場面で男と女という捉え方ではなく、男女一体という効率的な考え・活動が大切だと思います。男女共同参画に関わり、普段の生活の中で何気なく見かける物も表現によっては男女の区別がされてしまう事に気付かされました。(K.O)

問い合わせ先

登別市市民生活部市民サービスグループ 〒059-8701 登別市中央町6丁目11番地

TEL：0143(85)2139 FAX：0143(85)7674 E-mail：simin_danjyo@city.noboribetsu.lg.jp

登別市男女共同参画情報紙「アンダンテ」第16号 発行日：令和2年3月

企画・編集：登別市男女共同参画社会づくり推進会議

アンダンテ企画・編集委員一同

登別市ホームページ

<http://www.city.noboribetsu.lg.jp>